

国際会議成果報告書

(公財)スガウエザリング技術振興財団 助成事業

平成31年度国際会議助成 (第38回)

1. 国際会議名 The 3rd International Symposium on Anodizing Science and Technology (AST2019)
(第3回アノード酸化の科学と技術に関する国際会議)
2. 申請者所属・氏名 兵庫県立大学 大学院工学研究科 化学工学専攻 教授・八重真治
3. 開催期間 令和元年6月2日から令和元年6月5日まで
4. 国際会議成果の概要

(和文) 本国際会議は、一般社団法人表面技術協会 金属のアノード酸化皮膜の機能化部会 (ARS 部会、代表幹事・組織委員会委員長 幅崎浩樹 (北大)) が主催し、2008年北海道留寿都村、2014年札幌市での開催に続くものである。欧米と韓国・中国など世界15カ国から130名 (うち海外43名) の参加者 (同伴者を含め140名) を得て、当初見込を上回る規模で実施した。発表申込102件のうち、ロシアなどの取下を除き、主題講演2 (うち海外1)、基調講演8 (6)、招待講演17 (10)、一般講演30 (13) ポスター発表36 (10) を要旨集に掲載し、交通事情などによる中止を除く91件の発表が実施された。会議主題に挙げた、アノード酸化皮膜の形成機構・構造制御・物性と特性の評価・機能応用、多孔質アノード酸化皮膜の自己組織化とナノ材料への応用、半導体のアノード酸化とその応用、およびアノード酸化によるアルミニウム・マグネシウム・チタン材料の表面処理の多岐にわたる最新の研究成果が発表され、終始活発な議論と情報交換が行われた。また、大学院生を含む若手研究者が各国から多数参加し、優秀な若手ポスター発表5件を表彰した。この他に、アノード酸化皮膜の干渉色による絵画作品の特別展示、協賛企業などの展示、淡路人形浄瑠璃鑑賞、鳴門渦潮と北淡震災記念公園野島断層の見学、懇親会などを実施し、いずれも好評を博した。

アノード酸化発祥の地である我が国での開催は、各国の研究者から求められたことであり、国際交流・国際貢献としても大きな意義があった。今回、海外の学会などとの連携が増加し、次回の日本での開催も決定するなど、学界への高い効果があった。国内外の関係業界からも、協賛のみならず、発表や多くの聴講者を得たことから、今後のアノード酸化技術の発展への寄与が期待できる。

(英文) AST2019 was organized by Anodizing Research Society (ARS) of the Surface Finishing Society of Japan (SFJ), and held at Awaji Yumebutai International Conference Center, Awaji Island (Awaji-city), Hyogo, Japan from 2nd to 5th June 2019.

Conference Chair: Hiroki Habazaki (Hokkaido University, Chair of ARS)

Secretary General: Shinji Yae (University of Hyogo)

Focus: Various aspects of anodizing science and technology

Number of participants: 130 from 150 countries (Austria, Belgium, China, Czech Republic, France, Germany, Italy, Japan, Korea, Norway, Poland, Portugal, Sweden, UK, USA)

Number of presentations: 91, 2 Plenary lectures, 7 Keynotes, 17 Invited talks, 30 Contributed oral presentation, 35 Posters.